

国

語

(
解答
番号
)

1

～

37

第4問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。(設問の都合で送り仮名を省いたところがある。)(配点 50)

六経(注1)之言フ学ハ肇見ハシ於武丁(注2)之命スルニ説フニ而論レ為学之道ヲ曰ヒ遜セント

曰フ敏而巳ト遜者欲シテ其謙退セント而如ク有所ナリ不能ハ敏者欲シテ其進修セント

而如ク有所ナリ不能ハ及退クハ則虚クシテ而受人ニ進則勤メテ以励ナリ己ヲ二者固不ル

容ベカ偏廢ス也(1)

孔子大聖人而不ニ自聖トセ故曰フ我非スト生而知ル之者ニ可謂フ遜

矣。然而又曰フ好ミ古敏ニシテ以求メタル之者ナリト則其求レ之也曷嘗不レ貴ニ於

敏ニ乎。他日与ニ顔曾(注5)二子言ヒテ仁与テ孝而二子皆自謂フ不レ敏ナラ其

遜抑ナラ可見ル矣。回之仁参之孝三千之徒未ダ能ハ或アル之先ル焉(注6)。豈ニ

真不レ敏者乎(ナラン)

苟^{シラ}徒^{モタ}為^{シテ}自^ラ卑^{ムル}而^ル不^レ思^ハ所^コ以^テ自^ラ強^{ムル}是^レ謂^フ知^レ退^ケ而^レ不^レ知^ラ進^ム蓋^シ

Ⅰ 雖^モ美^ト德^ト然^{レドモ}必^ズ則^チ有^リ功[。]由^{リテ}是^ニ言^ハ之^ヲ則^チ為^ス学^ヲ之^道所^ハ重^{ンズル}尤^モ

在^ル於^ニⅢ 也[。]

(黄^{コウ}滔^{トウ}『金^{キン}華^カ黄^{ワウ}先^{セン}生^{シヤウ}文^{ブン}集^{シツ}』による)

(注)

- 1 六経——『易経』『書経』『詩経』などの六つの「経書」。孔子に始まる儒家が尊重する古典。
 - 2 武丁之命^レ説——殷の王である武丁が、臣下の傳説に徳を修める方法を答えるよう命じたことを指す。このとき傳説は「遜」
- 「敏」二つの言葉を使つて答えた(『書経』説命篇)。
- 3 我非^ニ生而知^レ之者——『論語』述^{じゆつ}而^じ篇に見える孔子の言葉。
 - 4 好^レ古、敏以求^レ之者——『論語』述^{じゆつ}而^じ篇に見える孔子の言葉。
 - 5 顔・曾——孔子の弟子である顔回と曾参^{そうしん}のこと。
 - 6 或——ここでは「有」に同じ。

問1 傍線部(1)「偏」・(2)「所以」の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は

29

30

(1)

					29	「偏」
┌───────────┐						
⑤	④	③	②	①		
片方だけ	みだりに	安易に	全面的に	区別して		

(2)

					30	「所以」
┌───────────┐						
⑤	④	③	②	①		
目的	方法	能力	行為	場所		

問2 傍線部A「遜者欲其謙退而如有所不能。敏者欲其進修而如有所不及」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

31。

- ① 「遜」とは、自分は謙虚でありたいと思うのだが、とうていそれができそうにないと考えることである。「敏」とは、自分は進んで学びたいのだが、そのことを言わないほうがいいようだと考えることである。
- ② 「遜」とは、自分は謙虚であろうとしているが、なおそれができていないようだと考えることである。「敏」とは、自分は進んで学ぼうとしているが、なおそれが不十分であるようだと考えることである。
- ③ 「遜」とは、自分は謙虚でありたいと思うのだが、それでは人に対抗できそうにないと考えることである。「敏」とは、自分は進んで学びたいのだが、それでも人に及ばないようだと考えることである。
- ④ 「遜」とは、自分は謙虚であろうとしているが、時にはそれが不必要なこともあるようだと考えることである。「敏」とは、自分は進んで学ぼうとしているが、時にはそれが無意味であるようだと考えることである。
- ⑤ 「遜」とは、自分は謙虚であろうとしているが、実際にはその才能が全くないようだと考えることである。「敏」とは、自分は進んで学ぼうとしているが、実際にはその才能が全くないようだと考えることである。

問3 傍線部B「則其求之也、曷嘗不貴於敏乎」について、(i)書き下し文・(ii)その解釈として最も適当なものを、次の

各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 32 ・ 33。

(i) 書き下し文

32

- ① 則ち其の之を求むるなり、曷ぞ嘗て敏より貴ばざらんや
- ② 則ち其の之を求むるなり、曷ぞ嘗て敏を貴ばざるや
- ③ 則ち其の之を求むるや、曷ぞ嘗て敏より貴ばざるや
- ④ 則ち其の之を求むるや、曷ぞ嘗て敏を貴ばざらんや
- ⑤ 則ち其の之を求むるや、曷ぞ嘗て敏に貴ばれざらんや

(ii) 解釈

33

- ① そうだとすると、孔子が古の教えを追求するに当たって、どうして「敏」により貴ばれなかったことがあるのか。
- ② それだからこそ、孔子は古の教えを追求したのであるが、どうして「敏」よりも貴ばなかったことがあるのか。
- ③ そうだとすると、孔子が古の教えを追求するに当たって、どうして「敏」を貴ばなかったことがあるのか。
- ④ それだからこそ、孔子は古の教えを追求したのであるが、なぜ「敏」を貴ばなかったのであろうか。
- ⑤ そうだとすると、孔子が古の教えを追求するに当たって、なぜ「敏」よりも貴ばなかったのであろうか。

問4 傍線部C「豈真不敏者乎」とあるが、筆者がそのように述べる理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 顔回は「仁」に対して、曾参は「孝」に対して、みずからは「敏」でないとはいいつつも、実際は他の三千の弟子たちよりも「敏」である態度で取り組んだから。
- ② 顔回は「仁」に対して、曾参は「孝」に対して、孔子の教えを忠実に守って、実際に他の三千の弟子たち以上に「遜」である態度で取り組んだから。
- ③ 孔子は、顔回と曾参が「敏」でないため、顔回には「仁」に対して、曾参には「孝」に対して、他の三千の弟子たちよりも「遜」である態度で取り組むように指導したから。
- ④ 孔子は、顔回には「仁」に対して、曾参には「孝」に対して、他の三千の弟子たちに対するのと同様に「敏」である態度で取り組むよう指導したから。
- ⑤ 顔回と曾参は、孔子の「古を好む」考えに対しては「遜」であったが、「仁」と「孝」とに対しては他の三千の弟子たちよりも「敏」である態度で取り組んだから。

問5

空欄

I

II

III

に入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35

- | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| I | I | I | I | I |
| 遜 _ハ | 遜 _ハ | 敏 _ハ | 遜 _ハ | 敏 _ハ |
| II | II | II | II | II |
| 敏 _{ナラバ} | 敏 _{ナラバ} | 遜 _{ナラバ} | 遜 _{ナラバ} | 敏 _{ナラバ} |
| III | III | III | III | III |
| 敏 _ニ | 遜 _ニ | 遜 _ニ | 敏 _ニ | 遜 _ニ |

問6 この文章の(i)構成・(ii)筆者の意図についての説明として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 36 ・ 37。

(i) 構成

36

① 第一段落は本論の主題となる語についての定義付け、第二段落はその言葉を具体的に実践した歴史上の人物の例、第三段落は筆者自身の見解という展開になっている。

② 第一段落は本論の主題となる語についての經典による権威付け、第二段落は聖人の言葉による補強、第三段落は筆者の社会的通念への批判という展開になっている。

③ 第一段落は本論の主題となる語についての筆者自身の見解、第二段落は儒家思想家一般の見解、第三段落は筆者自身の見解の優越性の主張という展開になっている。

④ 第一段落は本論の主題となる語についての太古の時代における認識、第二段落は孔子の時代における認識、第三段落は筆者の時代における認識という展開になっている。

⑤ 第一段落は本論の主題となる語についての出典確認、第二段落はそれに対する思想史上の対立点の明示、第三段落は筆者から読者への問題提起という展開になっている。

(ii) 筆者の意図

37

① 学問をするには、書物を熟読し人の話によく耳を傾けることが大切である。効率的に行動すればさらによい。

② 学問をするには、自己中心的な先入観を捨てることが大切である。他者の意見をよく聞かなければならない。

③ 学問をするには、客観的に自己を見つめることが大切である。自分でうぬばれたり卑下したりしない方がよい。

④ 学問をするには、みずから能動的に努力することが大切である。人の教えを受け入れていただけでは進歩しない。

⑤ 学問をするには、最も有意義なものを見つけ出すことが大切である。そのためには対話や議論が欠かせない。